



<写真1>壁が白い空間の場合、昼間の外光が入る時間帯はスッキリとした空間イメージになる反面、夜間は白い壁が影で暗くなり、寒々しい空間イメージになりやすいです。暖色系の色彩を施した壁面は、空間を暖かいイメージにすることができ、家族団欒の場として利用するのに最適です。

<写真2>部屋の1面をアクセントで色を変えることによって、視線を集中させ、室内のエネルギーを高めることができます。アクセント以外の壁が白いと、色彩のコントラストが大きくなってしまい空間のバランスが崩れる為、アクセント壁との色調を考慮した壁色を選択する事が大切です。

<写真3>玄関ホールは家の第一印象を決める、人間で例えるなら顔となる部分なので、選定する色彩は特に重要となります。写真のようなベージュ系の優しい色彩を用いた空間は、温もりを感じさせ、リラックスできるイメージを与えてくれます。

<写真4>ダイニングルームに用いる色彩は、オレンジ系統の明るい色にする事で、家族のコミュニケーションを活発にしてくれます。風水では、色彩情報も視覚を通じて体内に取り込まれると考える為、エネルギーを高められるような明るい色彩がダイニングルームには適しています。



Feng-Shui Gallery

special edition vol.93

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『色彩による空間イメージの変化』

～白い壁の空間との比較・住宅編～



明るい色彩で構成された空間と、彩度の無い白い壁の空間とで、視覚的にどのようなイメージの違いがあるか見てみましょう。